

(双葉西小) 学校 学校関係者評価書

令和3年3月1日(月)

(双葉西小学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和3年2月26日(金) 15:00時～

会場：多目的室

参加者：(学校関係者評価委員)

小田切千尋 山田健一郎 石原茂雄 立川直美
中島雅子 前村はぎ映 平塚克人 小宮山昇

I 学校側から提案された内容

- いじめ・不登校・体罰について
- 学校評価について
- ボランティア活動の手引きについて
- 来年度の学校体制について
- 来年度の予定について

II 協議された主な内容

- 読書離れと児童のスマホ・携帯・ゲームの長時間化について
- 外国語，ICTの地域連携について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- 教職員自己評価では，57項目全てで90%を超えており(A回答)「達成できている」と評価できる。本校職員が高い意識で教育活動に取り組んでいる。
- 児童アンケートでは，27項目中24項目が90%を超えており(A回答)，児童は概ね充実した学校生活を送っている。
- 保護者アンケートでは，肯定的な回答(80%以上)が23項目中14項目あり，それに満たない回答も70%台であることから，学校と保護者の関係が良好であり信頼関係を築いていることがわかる。

II 特徴

- 学校の教育目標や教育方針を十分に意識した教育活動が行われている。
- 児童は家庭の生活習慣が整っており，安定した家庭生活を送っている。
- 教職員自己評価では，地域との連携に関わる項目が8項目全て100%の肯定的な回答となっている。保護者アンケートでもホームページや学校だよりでの広報が全項目中一番の高評価を受けている。
- 地域とつぐむ授業が展開されており，児童アンケートからも地域の人が助けてくれる授業についてためになっているという回答が85%となっている。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- 外国語やICTについての地域との連携は、今後必要になってくる。ボランティアや保護者を募るように、地域に発信し協力を求めているかどうか。
- スマホで児童が巻き込まれる犯罪が増えている。学校では4年生でスマホトラブルセミナーを開催したり、保健体育などでもその扱いを指導したりしているが、使用する年齢が低年齢化している。低学年からのSNSの「怖さ・危険」について指導が必要となってくる。
- Eスポーツなども人気が、オリンピックの種目にさえなっている。親としてどう対応したら良いか迷いがある。
- 読書離れとスマホやゲームの長時間化は相関関係があるのか、経年的に調べていく必要がある。
- 児童のスマホ使用時間は全国的にも増えている。家庭では宿題があり、さらに自主学習も求められるため、読書時間も減る。また、調べ学習があり、スマホやパソコンを扱うことも増えてくる。タブレットの貸し出しという話も出てきている中で、どう指導していくべきか考えていく必要がある。
- スマホやゲームについては学校にお任せではなく、家庭教育が一番必要と考える。原点は家庭教育と考えるので、家庭の教育力をつけるよう働きかけていく方法を探していきたい。

※特記事項

- 広報をしている中で学校に肯定的な返事が返ってくることもある。児童発信のおたよりについても同様である。子どもたちが発信していくことは望ましく、読み手や受け手を意識した発信を今後も継続してほしい。

記載責任者（双葉西小学校 学校関係者評価委員） 氏名： 小田切 千尋